

御国の称賛をうける者！！ 陶器師主の手にゆだねよ 「3・本来の目的」

ルカ 16：14-31

■ 人間の心得

1. 忘れてならぬものは 恩義
2. 捨ててならぬものは 義理
3. 人に与えるものは 人情
4. 繰り返してならぬものは 過失
5. 通してならぬものは 我意
6. 笑ってならぬものは 人の失敗
7. 聞いてならぬものは 人の秘密
8. お金で買えぬものは 信用

これらの言葉は、自分を見失わず、自分を保ち、自由に生きるために残されています。

自由とは、自らが存在する理由を知っているということです。誰にも脅かされることなく、自分が行くべきところに行こうとする力です。そして、家族が受け継いできた存在の理由を知り、代々が築いてきた財産を用いて、自分の代になったときに、自分の存在理由を表し、どのように生きようとするのか、また、どのように責任を持つとうとするかが、自由ということです。

放蕩息子は、自由を得ようとして行動しましたが、欲を晴らしたただけです。欲を晴らし、何もかもなくなり、例え雇われでもいいから、父の元に居たいと思ひ、帰ってきました。人は、自らを失ひ、全てを失って、はじめて自分がどこに居るべきかを見ることができるといえます。

■ 福沢諭吉が残した7つの教訓

1. 世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事
2. 世の中で一番みじめな事は、人間として教養がない事
3. 世の中で一番さびしい事は、する仕事がない事
4. 世の中で一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事
5. 世の中で一番尊い事は、人の為に奉仕して決して恩にきせない事
6. 世の中で一番美しい事は、すべてのものに愛情を持つ事
7. 世の中で一番悲しい事は、うそをつく事

これらの言葉は、聖書に書かれているようなことであり、福沢諭吉の中心には、聖書の言葉が土台になっています。自分の姿を保つために、これらの皆さんの言葉が遺言として残されています。

私たちは、自分が何のために存在しているのか、目的を失ひ、どこに向かっているのか、わからなくなっています。もう一度、良く考え、自分を変えていく必要があるのではないのでしょうか。今年、教会に与えられているテーマは、「変貌」、「變遷」です。変わるということです。

例えば、蟬は、幼虫から羽化するときに、トンボが脱皮しているときなど、攻撃に合いやすく、弱い時間があります。私たちも変わろうとすると、弱く、妨害を受けやすいのです。良く祈り、そして、正しく決断することが大切です。

■ 本来の目的

私たちは、どのように人生を過ごしているのでしょうか。ルカ 16：14 「金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。」

なぜ、あざわらっていたのでしょうか。ひとつは、上から目線であったことです。もう一つは、自分たちが教えている事と違っていたからです。

人は自分が思っている事と違う事を言われると、聞かない。または、笑ってごまかすのです。あの人の言っている事は、違うと言ひ、自分の方が正しいと思ひているのです。

こういう人は、変わることができず、結果、目的を果たすことができないのです。

イエスキリストの大半の教えは、人々にとって、今まで聞いてきた言葉と違っていました。

毎週、礼拝で語られている言葉も、よく考えてみれば、そうだと思う事であるが、私たちが過去に大事にしてきた言葉と違うことも多くあります。礼拝を聞いているだけでは、自分の身にならないのです。聞いていることに意味がもたらされなければ、勿体ないことです。

ルカ 16：15 「イエスは彼らに言われた。あなたがたは、人の前で自分を正しいとする者です。人間の間であがめられる者は、神の前で憎まれざらねばなりません。」

私たちは、いつも人からどう見られているかを気にしています。人前で良い事をすればよいということではありません。見ているのは心の中であるということをおぼえてはいけないのです。

ルカ 16：16 「律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音は述べ伝えられ、だれもかれも、無理にでも、これに入ろうとしています。」

ルカ 16：17 「しかし、律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びるほうがやさしいのです。」

イエスキリストの道に行こうとすることは、非常に狭き門であった。今まで教えられてきた、律法と預言者ヨハネの教えは終わります。

神の国の福音は、述べ伝えられて、だれもかれも無理して、これに入ろうとします。私たちがしていることです。何とかして自分の人生を変えようとしています。そこにはたくさんの葛藤と闘いがあります。だけど、それを得ようと努力します。しかし、イエスキリストは、律法を取り消しに来たのではなく、律法を成就させるために来ました。聖書では次に、姦淫を犯す者、あるお金持ちの者に話しは変わるが、この例えを通して、本来の目的を見失うことを語られています。神の本来の目的ではないルールを使って、間違った用い方をしていたことに対して、厳しく戒めたということが語られています。目的は何なのでしょう。世の中には、自分の考えがたくさん横行して、自分の考えと違うと嫌という気持ちになり、また、うまくいかないで聞いてもらえないと、あきらめたり、考えるのをやめてしまいます。もし、自分が終わる時、後悔しないように、自分がどう生き伝えるか考えなければなりません。考えを持って、聴く、伝えていくことが大切です。

■ 小さいことに忠実

ルカ 16：10～12 「小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。また、あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたにあなたがたのものを持たせられるでしょう。」あなたがたのものを、あなたがたに持たせられない可能性があるのです。もし、今、任せられている不正の富ですら、正しく行えないのなら、神様から預かったあなたの体ですら正しく用いないのであれば、あなた自身が帰ってくることはないのです。富という総称は、この世です。この世の今の立場や、この世の今流行っている事、それらのものに目を向けている状態の中では、本当に自分を見出すことはできないのです。なぜなら、それに自分の心を紛らわしているからです。

お金は、用いるものだから、何かのために貯めることは良いことです。目的のために用いるのであれば、素晴らしいことです。それは、自分の周りの人を助けることになるからです。

アブラハムのように、貧しく敵の地に居なければならなかった人々を戻し、モーセのように豊かになった人々を育て、異邦の地から救い出し、神の約束の地に導く、ダビデのようにその豊かさを持って、自分の国民を養ひ、ソロモンのように、その豊かさは知恵によって民を裁くものでした。

神は、豊かにして愛された人はたくさんいました。ダビデのように愛される人でした。ラザロは、神が助けた人、あわれんだ人でした。貧しさの中でも、どんな境遇にあっても、神を信頼していました。ラザロは、貧しさの中であつても、神を見出すことができる生き方でした。

■ あなたは、神様をどう描いていますか。考え違いをしていませんか。

1. 神は、私の願いをいつも聞くべきだ。
神は、あなたと共におられる方で、私たちが神の願いを聞く方です。父なる神は、私たちの願いを知っています。しかし、その願いが叶えられることで、あなたが悪くなるなら叶わないのです。
2. 神は、この世で私を幸せにすべきだ。
父なる神は、我が子が願えば聞きたい、あなたを幸せにしたいと願っています。目先のことでなく、本当の意味で幸せになることを願っています。
3. 苦しみを与える神は残酷な神だ。
父なる神は、苦しみを与えているのではありません。この世で、苦しみを解決するのは私たちです。本当の目的に私たちが立てるように働きかけてくれます。

■ さいごに

十字架、それは、私たちの人生に大きな変化をもたらす力です。それは、イエスキリストの生き方がそこにあるからです。聖書は、私たちに何をしようとしているのでしょうか。私たちが創造された本当の自分に戻ることであることです。主は祈りを聞かれ、神がなそうとしていることは、あなたが、あなたであることです。あなたの人生が、本来の目的に、聖書を原点に、見るべきものを間違わないように、また、施しの行いではなく、神様から与えたあなたに対する使命に立つて生きることができるようにお祈りします。

(要約者:西崎 達也)

(2024年1月28日)